第１回ワークショップ企画書

「小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究」プロジェクト

代表：杉田　紫野

“ハロー能楽！～“能”を体験しよう～”

日時：２００６年7月２６日　午後１時～午後３時
場所：同志社小学校
対象：三年生の児童および保護者

〈ワークショップのコンセプト〉
「愛好家のたまごをつくる」という年間コンセプトに基づき、第１回目のワークショップとして、舞・謡・太鼓の体験と、装束の展示・紙芝居パネルを中心とする学びをとおして、能に対するより具体的なイメージを構築していく。

〈ブースについて〉
具体的なブースの内容については次のとおり。
体験――舞、謡、太鼓の体験学習および発表
学び――紙芝居パネル（能のストーリーと背景）、展示（装束、パネル写真）

《企画書目次》

体験ブース・・・・・・・・・・・・　１

学びブース―紙芝居パネル・・・・　３
装束展示・・・・・・　４

同志社小学校へのお願い・・・・・　９

【資料１】タイムテーブル　・・・・１０
【資料２】校内ブース配置図・・・・１１

《体験ブース》

〈体験ブースのコンセプト〉

～能楽師さんの指導のもと、体験してみよう～

〈狙いと効果〉

○　能のテンポに親しむ

・　能が、舞・謡・囃子の３つの要素で構成されていることを体験的に学ぶ。

・　能が、舞・謡・囃子の個々の技量がせめぎあい、協調しあってひとつの舞台を作り上げていく芸能である、と知ることで、自己の個性と能力をのばしつつ、他者との調和に配慮する力を養う。

・　練習の成果を発表することで、体を使って表現する楽しさを学ぶとともに評価しあう態度や姿勢を学ぶ。

〈実施方法〉

６０人を、前半に体験するグループと後半に体験するグループの２つに分ける。体験プログラムは１グループあたり３０分ずつ行い、体験していないグループは、その間、紙芝居・展示ブースを見学する。（詳しくは別紙タイムテーブル参照）

＊　グループの人数の内訳

（注：①、②は体験ブースのグループ分け、A.B は発表会のグループ分け）

〔練習時〕

①
- 金剛流：謡　１２人―B
- 観世流：舞　１２人―A
- 太鼓　：　　６人―A

②
- 金剛流：舞　１２人―B
- 観世流：謡　１２人―A
- 太鼓　：　　６人―B

※　用意できる練習用太鼓は６丁

※　なお、舞はアリーナ、謡は２階和室、太鼓は防音のため２階音楽室を使用する

※　A は観世流、B は金剛流のグループ。発表はこれを各流儀２グループに分ける

〔発表会〕発表会は、１流儀を２回に分けて行う。計４回。

１回目：　A グループ（１）１５人（観世流：舞６人、謡１２人、太鼓３人）

２回目：　A グループ（２）１５人（観世流：舞６人、謡１２人、太鼓３人）

３回目：　B グループ（１）１５人（金剛流：舞６人、謡１２人、太鼓３人）

４回目：　B グループ（２）１５人（金剛流：舞６人、謡１２人、太鼓３人）

※ 謡を体験した児童は、発表を２回行うことになる。また、舞・太鼓については、人数が多いため、発表を２回に分けるが、舞グループ待機組の６人は、舞台上で謡に参加する。

《プログラム》

演目：「賀茂（加茂）」のキリ（最後）の部分

※ 表記については、観世流は「賀茂」、金剛流は「加茂」

☆ どうして「賀茂（加茂）」を選んだのか

＊ 上賀茂神社、下鴨神社を題材にした曲であり、京都にちなんだストーリーである。

＊ 雷の音など、擬音語が謡に使われているので、言葉の面白みを感じられる。

〈キリの部分は、擬音語が多用されており、謡のテンポもなじみやすい〉

※ ストーリーについては、事前学習プリントを参照

〔1 回の体験におけるタイムテーブル〕

１．それぞれのブースに分かれて、入室時に詞章プリントを受け取る。

２．作法（足の運び方、正座、扇の扱いなど）～5 分
練習を始める上で、基本的な作法を教わる

３．体験（実際に指導）　～20 分
能楽師の指導の下、体験する

（３～５分は予備時間）

《プロジェクト科目で用意するもの》

- 扇…80 本（予備、能楽師の分も含めて、発注済→費用は能プロ経費）
- 練習用太鼓…６丁（５丁は能楽協会に貸し出し依頼、１丁は井上氏所有）
- 詞章のプリント…80 枚（児童、先生方の分。橋本氏が作成したものもとに、観世流金剛流２種類のプリントを印刷していく）
- ビニールテープ…３色（発表会の際、舞をする児童の立ち位置を決めるため）

《協力要請》

- 能楽師…５名
  - 金剛流―廣田幸稔氏、宇高竜成氏
  - 観世流―橋本光史氏、橋本忠樹氏
  - 太鼓　―井上敬介氏

◎ プロジェクト科目側スタッフ＜手伝いを含み合計 20 名（予定）＞

- ビデオ撮影…４名（プロジェクト科目記録用）
- 受付…２名（保護者案内のため）

・　各ブースの担当その他…13 名
・　司会…1 名
　※　最終的な人数・氏名の伝達は遅くとも２４日までにメールで行う。

《学びのブース》

〈学びブースのコンセプト〉
「能とはどのようなものか」という概括的な理解を深めるために、紙芝居パネルで膨らませたイメージと実際の能の舞台のイメージを結びつけることを通して、能をより身近に、体験的に学ぶことができるようにする。

〈紙芝居パネル〉

〈ねらい〉
・　有名な謡曲のストーリーとその背景を紹介することで、実際に能の舞台を鑑賞する際の足がかりを作る。

〈プログラム〉
☆ 扱う謡曲…『羽衣』
～あらすじ～
昔、三保(みほ)の松原というところで漁師の白龍が美しい衣(羽衣)を拾い、家に持って帰ろうとしたところ、天女が現れ、羽衣を返すよう求める。白龍ははじめ羽衣の魅力に惹かれて返そうとしないが、天女が悲しむ姿を見て哀れに思い、舞を舞えば返すと提案する。天女は快く引き受けるが、羽衣がないと舞えないため、先に返すよう求める。ところが、白龍は、羽衣を先に返してしまうと、舞わずに帰ってしまうのではないか、と疑って返そうとしない。そこで、天女は「疑いは人間にだけあるもので、天に偽りはない」と言う。疑ったことを恥ずかしく思った白龍は天女に羽衣を返す。
そして天女は約束通りすばらしい舞を舞って、天へと帰っていった。

～場面～(紙芝居は計 4 枚)
① 漁夫が松の木にかけられた羽衣を見つける
② 持ち帰ろうとすると天人が現れて２人話す
③ 天人の言葉に漁夫羽衣を返す
④ 天人舞う

☆ なぜ『羽衣』を選んだのか

・ 初心者にも分かりやすいストーリーで、上演回数も多い曲である。見た目にも美しいので装束の展示にも向いている。
・ 「いや疑いは～」のくだりには、「人をむやみやたらと疑ってはいけない」、「嘘をついてはいけない」という教訓が含まれており、教育効果がある。
・ 天女にまつわるお話は七夕の説話や「羽衣伝説」、昔話の「天の羽衣」「天人女房」等さまざまなものがあり、子供たちも一度は触れたことがあるであろうと考える。よって、イメージがわきやすく、導入という今回のワークショップの位置づけを考えると、題材として最適である。

〈実施方法〉

・ 紙芝居計 4 枚を可動式ボードに展示し、グループでその間を移動しながら見学する。
紙芝居をめくるのではなく、児童とナビゲーターが絵の前を移動していく。
・ 30 人を 2 つのグループに分け、1 つ目のグループは紙芝居パネルから展示へ、2 つ目のグループは展示から紙芝居パネルへと進む。
・ １グループにつきナビゲーター2 名（ストーリーテラー１名と解説者１名）を同行させ、ストーリーを読んで聞かせるとともに、質疑応答にも応じ、児童を誘導する。
・ 実施場所は１階普通教室前廊下(多目的ホールに近いスペース)を予定している。
・ 紙芝居パネルの所要時間は 20 分。絵 1 枚あたりは約 5 分と想定する。
展示の所要時間は 10 分で、あわせて、学びのブース全体の所要時間は 30 分。

＊ 児童の動きは、別紙タイムテーブル参照
＊ 事前学習として保護者向けに「羽衣」の物語についてのプリントを配布し、子供に読み聞かせしてもらえるようにする（保護者用プリント参照）

〈展示〉

〈ねらい〉

・本物の装束・面を目で体感し、説明を聞いて装束の歴史、伝統の重さを学ぶ。

〈実施方法〉

・ 場所は１階音楽室と多目的教室のパーティションを取り払って使用する。
・ 展示品は下記の３点とする。
①装束・面
②装束の着付けの過程を描いた絵
③装束を着用した舞台の写真
実際に能楽師が着用して演能している様子をイメージできるようにする。

・　所要時間は解説、移動を含めて 10 分
・　最初に展示品には絶対に触らないよう注意する（企画書９頁「お願い」参照）
・　紙芝居パネルと連動させておこなうので 30 人を１グループ１５人の 2 グループに分け、１グループずつ展示の解説を行う。

〈内容〉
・　紙芝居パネルと同じ謡曲「羽衣」についての知識を深めるため、使用される装束、面について、どういう演目で使用されるのか、「羽衣」ならではの装束の特徴などをナビゲーターの２人が解説する。
　①実際の能装束の前で、装束「長絹（ちょうけん）」、面「増女（ぞうおんな）」について、ナビゲーターがわかりやすく説明する。
　②「羽衣」の装束の着付け過程をイラストにして、それぞれの装束のもつ意味について解説する。
・　写真（4 枚）は「羽衣」のストーリーの、どの場面かを説明する。

《協力要請》
紙芝居作成…松村香代子　（文化情報学部１年　クラマ画会所属）
ストーリーテラー…田中茉里恵　（文学部２年　演劇集団 Q 所属）
田島美波　（文学部４年　演劇集団 Q 所属）

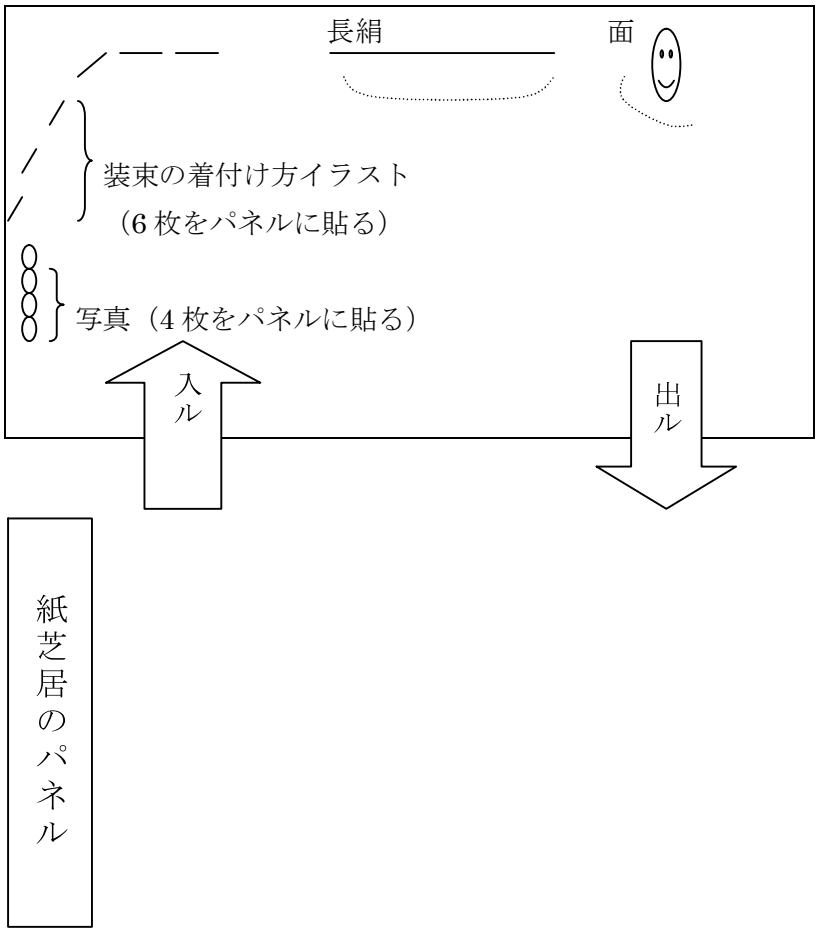
装束、面、展示用写真貸出し…観世流シテ方　橋本光史氏

《小学校に用意していただくもの》
展示用キャスター付可動式ボード…４枚【紙芝居パネル用】
展示用キャスター付可動式ボード…数枚【装束写真・イラスト用】
ガード用テープおよびポール…6 本（装束保護のため）

《プロジェクト科目で用意するもの》
・　紙芝居パネル用絵画（クラマ画会松村氏に作成依頼。絵画は受け取り済）
・　装束、面、能面展示用スタンド（橋本光史氏所蔵。当日橋本氏持参）
・　装束展示用衣桁（能プロが手配済）
・　装束着用写真（橋本氏提供の写真をパネル展示用に加工）

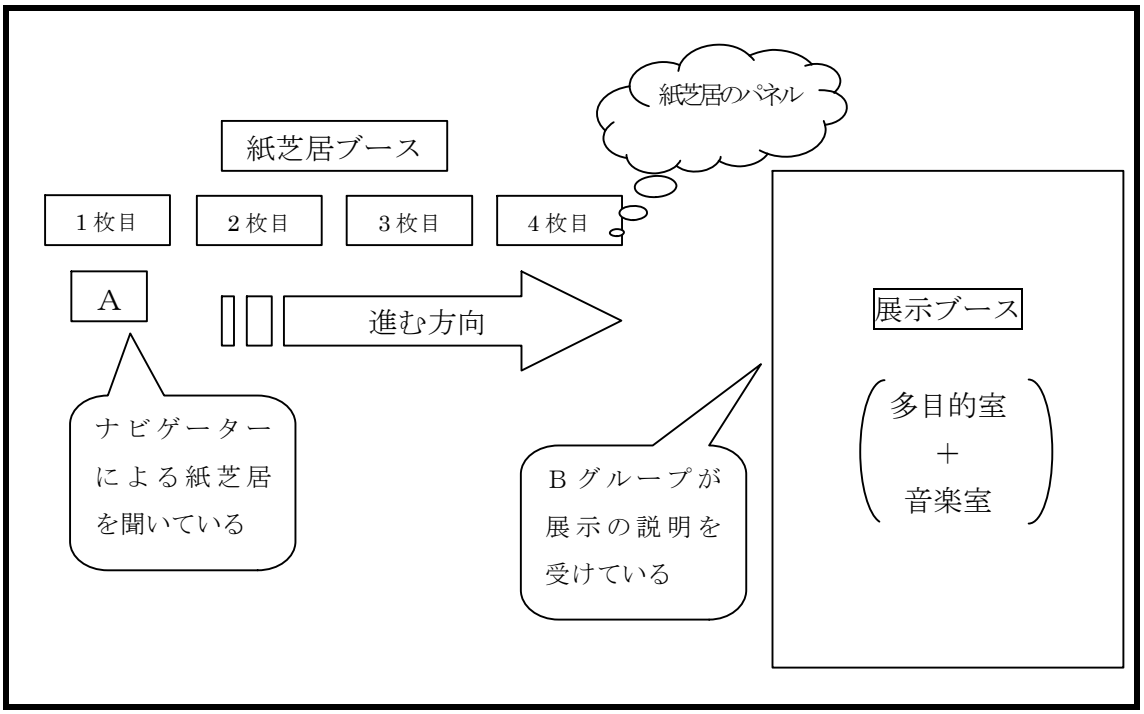
《装束展示ブース図》

1F　音楽室＋多目的室　　※実線は展示品、点線はガード

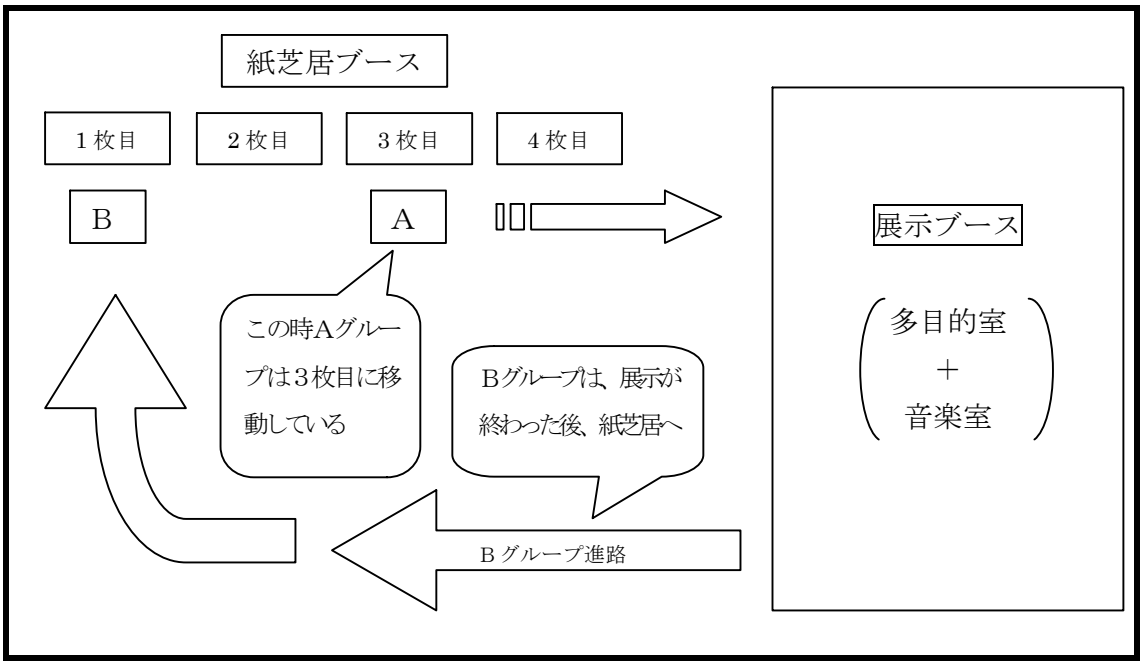


《学びのブース：実施図》(注：Ａグループ…紙芝居→展示　Ｂグループ…展示→紙芝居)

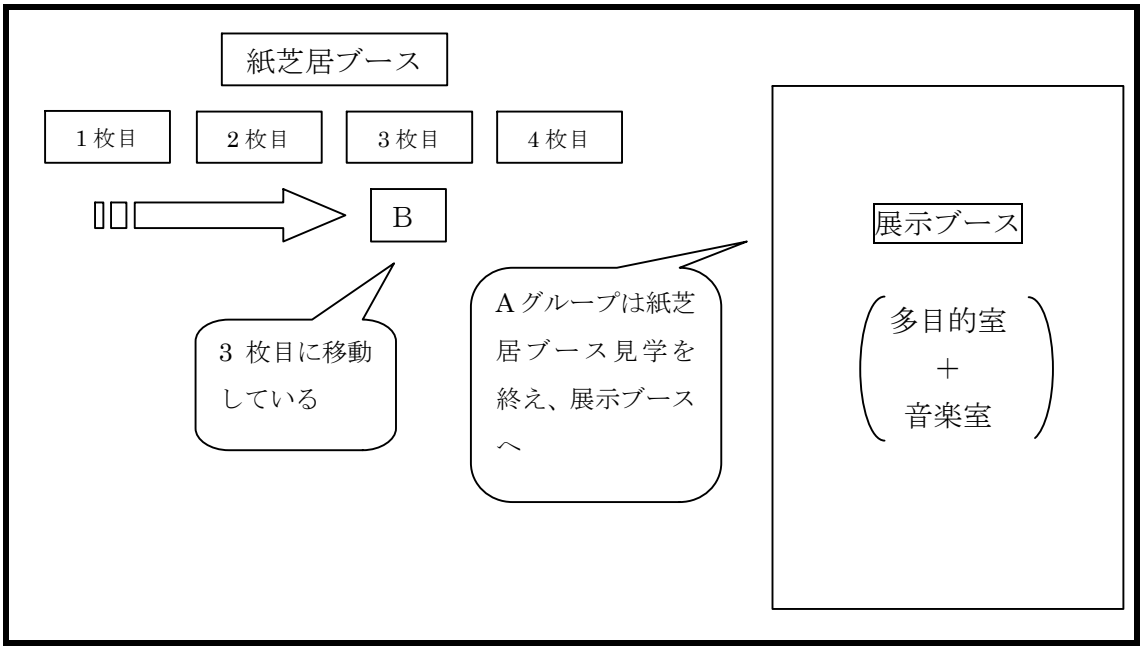
○ 開始直後



○ 10分後



○ 20 分後



○30 分後…展示・紙芝居両ブース説明終了。

《同志社小学校に当日までにお願いしたいこと》

【体験ブース】

・ 事前学習プリントの「かも」のページを、児童の皆さんと一緒に読んでいただきたいと考えています。
学習を深めることで、ワークショップの体験をより身近なものに感じ、有意義なものにするためです。

・ 各クラス３０人の児童を事前に、謡１２人、舞１２人、太鼓６人にグループ分けしていただきたいと思います。
事前にグループ分けをしていただくことで、当日の運営を円滑に行うことができるとともに、児童のみなさんにも自分の役割に対する興味を持っていただけると考えます。
「グループの人数の内訳」の項をご参照のうえ、前半に体験するグループと後半に体験するグループをクラスで分けた場合、発表会の際には、クラス混合の発表グループになります。また発表時の流派でグループ分けをした場合、学びのブースをクラス混合でまわることになりますことをご理解ください。

・ 体験ブース及び発表会では、上履きでは指導しにくいため、児童のみなさんには靴下で体験していただくことをお願いします。

【学びのブース】

・ 保護者用プリントの「羽衣」を、保護者の方に児童に読み聞かせをしていただくように、お伝えください。
児童と保護者の方が、能のストーリーについて話し合うことで、「もっと知りたい」という気持ちを引き出したいと考えています。

・ 「装束にはふれないように」と児童のみなさんにお伝えください。
今回展示させていただく装束は、能楽師の方が実際に演能の際、つけておられるもので、たいへん貴重で大切に保管されているものです。今回、橋本氏のご厚意により展示させていただけることになりました。当日、監視スタッフを配置し、管理を徹底したいと考えておりますが、より万全の体制をとるため、児童のみなさんに注意をお願いいたします。

・ 保護者の方に、装束の写真撮影をご遠慮いただきますよう、ご連絡をお願いいたします。装束の管理には所蔵者をはじめ、多くの方がかかわっておられます。何とぞ、ご理解、ご高配の程、よろしくお願いいたします。

【資料１】

〈タイムテーブル〉

13:00	**開会式**（アリーナ）	
13:10	①体験（金：和、観：ア、太：音）	②展示・紙芝居ブース（１F 多目的）
13:40	移動	
13:45	①紙芝居ブース（１F 多目的）	②体験ブース（金：ア、観：和、太；音）
14:15	移動	
14:20	**リハーサル**（アリーナ：緞帳を降ろした状態で。保護者はアリーナ座席で待機）	
14:30	移動	
14:35	**発表会**（アリーナ） A：観世流（１）（２）、B：金剛流（１）（２）、それぞれ実演時間は１～２分	
14:50	**閉会式**（アリーナ）	
15:00	**終了**	